

兵庫県但馬地区における但馬漁業協同組合の沿岸漁業資源管理協定

協定締結日 令和6年3月1日

(目的)

第1条 本協定は、但馬漁業協同組合に所属する漁業者によって漁獲される水産資源の管理に関して、当該水産資源の資源管理の方向性の達成を目的として、本協定に参加している者（以下「参加者」という。）により、当該水産資源に関して自主的な資源管理の目標を定め、当該資源管理の目標の達成のために具体的な取組を行うことで、もって当該水産資源の保存及び管理を図るものである。

(本協定の対象となる漁業の種類、水産資源の種類及び水域)

第2条 本協定の対象となる漁業の種類、水産資源の種類、水域は、それぞれ次のとおりとする。

	漁業の種類	水産資源の種類	水域
(1)	釣り漁業（ひき縄及びいか釣り漁業を含む）	くろまぐろ するめいか ぶり	但馬周辺海域 但馬周辺海域 但馬周辺海域
(2)	定置漁業	くろまぐろ まあじ ぶり	但馬周辺海域 但馬周辺海域 但馬周辺海域

(資源管理の目標)

第3条 本協定における資源管理の目標は、次のとおりとする。

水産資源の種類	水域	資源管理の目標
くろまぐろ	但馬周辺海域	資源管理基本方針(令和2年農林水産省告示第1982号。以下同じ。)別紙第2-1、第2-2に定める目標
するめいか	但馬周辺海域	資源管理基本方針別紙第2-12に定める目標
まあじ	但馬周辺海域	資源管理基本方針別紙第2-5に定める目標
ぶり	但馬周辺海域	兵庫県資源管理方針別紙第3-10に定める資源管理の方向性

(資源管理の目標の達成のための具体的な取組)

第4条 前条の資源管理の目標の達成のための取組は、それぞれ次表に掲げるところにより行うものとする。

	漁業の種類	具体的な取組	その他の取組
(1)	釣り漁業（ひき縄及びいか釣り漁業を含む）	但馬沿岸漁業協会で定める統一休漁日に加え、地区関係者で協議し以下のとおり休漁日を設けることとする。 (香住地区) 毎月1日以上 12月31日から1月3日まで (柴山地区) 毎月1日以上 12月30日から1月3日まで	(全地区) 全ての魚種について小型個体(若齢魚)の再放流に努める アカイカ漁の出航時間制限 8、9月：3時以降に出航 10月：4時以降に出航 11月以降：5時以降に出航

		<p>(竹野地区) 12月31日から1月3日まで 1月、3月、5月から11月は毎月1日以上、2月は3日以上、8月は2日以上</p> <p>(津居山地区) 12月31日から1月3日まで 7月から3月に各月1日以上かつ計10日以上</p>	
(2)	定置漁業	<p>地区関係者で協議し以下のとおり休漁日(袋網撤去)を設けることとする。また、クロマグロについては、資源管理基本方針及び兵庫県資源管理方針に定められたくろまぐろ(小型魚)及びくろまぐろ(大型魚)に係る資源管理の内容を遵守するとともに兵庫県助言・指導・勧告指針に基づく助言、指導又は勧告の内容を実施するものとする。(強度な資源管理)</p> <p>(鎧・余部地区) 9月1日から10月31日までの間の連続する5日間以上 12月1日から3月31日までの間の連続する50日間以上</p> <p>(竹野地区) 2月1日から5月31日までの間の連続する7日間以上 9月1日から12月31日までの間の連続する7日間以上</p>	

(取組の履行確認に関する事項)

第5条 前条の具体的な取組の着実な実施を担保するため、全ての参加者に対して、少なくとも年1回、前条の取組の履行確認を行うこととする。

- 2 全ての参加者は、前項の履行確認に協力するものとする。
- 3 第1項の履行確認は、兵庫県に設置された資源管理協議会において行うこととする。
- 4 第1項の履行確認においては、前条の具体的な取組については、それぞれ次表に掲げた証拠書類等を基に確認することとし、その他の取組については当該取組を確実に履行した旨を確認することとする。

	漁業の種類	履行確認における証拠書類等
(1)	釣り漁業(ひき縄及びいか釣り漁業を含む)	市場伝票、予め設定した休漁日・期間の確認できる資料、取組証明等
(2)	定置漁業	市場伝票、取組状況写真、取組証明等

(漁獲量等の漁獲関連情報の報告)

- 第6条 全ての参加者は、漁業法（昭和24年法律第267号。以下「法」という。）第90条第1項の規定に基づき、漁獲量及び漁獲努力量、資源管理の状況、漁業生産の実績等を都道府県知事に報告するものとする。
- 2 全ての参加者は、協定の実施のために必要とされる履行確認や効果の検証等の情報を積極的に都道府県、資源管理協議会に報告するものとする。

（取組の効果の検証に関する事項）

- 第7条 第5条の具体的な取組の対象魚種の保存及び管理に対する有効性を確認するため、本協定の有効期間の2分の1を経過した時及び当該有効期間の終了時に、本協定の取組の効果の検証を行うこととする。
- 2 前項の規定にかかわらず、対象魚種の資源評価が行われた結果、資源管理基本方針（令和2年農林水産省告示第1982号）及び兵庫県資源管理方針において重大な変更があった場合には、当該変更があった日から1年以内に検証を行うこととする。
- 3 前2項の検証は、直近の資源評価の結果及び前条で報告された情報その他参考となる科学的知見に基づき、兵庫県に設置された資源管理協議会において行うこととする。

（協定に違反した場合の措置）

- 第8条 参加者による資源管理の目標の達成のための具体的な取組、当該具体的な取組の履行確認への協力その他の本協定及び本協定の規定に基づく要領、規約等の内容に対する違反の疑義が認められた場合には、当該違反の疑義の内容について兵庫県に設置された資源管理協議会に報告し、調査及び協議することとする。
- 2 前項の調査及び協議の結果、違反したことが明らかになり、かつ、その違反の程度が重大なものであった場合には、当該参加者の本協定の遵守が要件となる国及び兵庫県からの補助を受けることができないこととする。この場合において、当該補助を受けることができない期間は、違反をした年度とする。

（協定への参加及び協定からの脱退）

- 第9条 全参加者の代理権を有する者（以下「協定代表者」という。）は、本協定に参加しようとする者に対して、参加届出書により参加する旨の届出を行わせるものとする。この場合において、本協定への参加は、協定代表者が当該参加届出書を受理した時点で行われるものとする。
- 2 参加者の住所又は氏名若しくは名称に変更が生じたときは、当該参加者は、協定代表者に対して、変更届出書により当該変更の内容の届出を行うものとする。
- 3 参加者が本協定を脱退しようとする場合には、当該参加者は、協定代表者に対して、脱届出書により当該協定からの脱退を申し出るものとする。この場合において、本協定からの脱退は、協定代表者が当該脱届出書を受理した時点で行われるものとする。

（協定の有効期間）

- 第10条 本協定の有効期間は、協定締結の日から5年間（令和6年3月1日から令和11年2月28日まで）とする。

（あつせんすべきことを求める場合の手続き）

- 第11条 法第126条第1項の規定に基づき兵庫県知事にあつせんすべきことを求める議事は、参加者の3分の2以上の多数で決する。

(その他)

第 12 条 本協定に定めのない事項については、参加者間で協議し、決定するものとする。

附 則

本協定は、令和 6 年 3 月 1 日から施行する。

(本協定の参加者)

別紙 参加者名簿参照